

令和8年(2026年)10月23日

保護者の皆様

札幌市立伏古北小学校
校長 小野 正二

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果分析について

深秋の候、保護者の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、4月に行われた、「全国学力・学習状況調査」の本校の結果と分析についてお知らせいたします。全国、北海道及び札幌市の状況については、既に報道等で示されている通りです。この結果を踏まえ、本校でも更に学習指導の充実を図って参ります。

児童質問紙の回答結果から

【本校児童の肯定的な回答が高い項目】

- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- 自分にはよいところがあると思いますか。
- 先生はあなたのよいところを認めてくれますか。
- 将来の夢や目標をもっていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。
- 普段の生活の中で、幸せになることはどれくらいありますか。
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか。

【本校児童の肯定的な回答が低い項目】

- 毎日、同じ時刻に起きていますか。
- 普段、どのくらいスマートフォンや携帯電話、PC、タブレット、TVなどでSNSや動画視聴をしていますか。
- 学校の勉強や悩みのことについて、あなたの親や家族は、どのくらいあなたと話しますか。
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からない点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか。(塾や家庭教師の先生と勉強している時間やインターネットを活用して学ぶ時間も含む)

児童質問紙の回答から、本校の6年生の子どもたちは、保護者の方々、先生、友達と多くの周りの人に温かく見守られ、安心して生活していることが伺えます。そのような温かな関りの中で、認められ成長してきたことで、「自分によいところがある」と自己肯定感が高い児童が多いと思われます。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」などの質問で肯定的な回答が多かったことから、道徳的価値を理解して生活している児童が多いと思われます。

学習場面においては、課題に向かって主体的に取り組んだり、自分の学びを工夫して深く追究したりすることが難しいと感じている児童が多いように思います。札幌市では、OECDが提唱したラーニングコンパス2030で示された学習プロセスであるAARサイクル(見通しをもつ、個別探究・協働探究、振り返りという流れの学習サイクル)を基にした課題探究的な学習を推進しています。本校でも、AARサイクルの学習の流れを大切に、導入場面で子どもの興味や関心を引き出したり、見通しをもたせたりすることを大切にして、主体的な学びとなるよう努めているところです。

ここ数年の本校の大きな課題として、子どもたちが保健や家庭科の学習などで学んだ健康に関する知識を普段の生活に生かすことができていないことが挙げられます。生活時間が不規則になっている、御家庭でスマートフォンやPCなどでSNSや動画視聴をする時間が多い、家庭学習時間が不足しているなどの問題を解決し、望ましい生活習慣を身に付けさせていくためには、保護者の方々のお子さんへの関わりが不可欠です。学校で継続的に指導していくとともに、御家庭とも連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

令和8年度 「全国学力・学習状況調査」の結果分析について

札幌市立伏古北小学校

本校の概要

【内容】

- 「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。
- 「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は全国平均を下回っているが、「読むこと」は全国平均とほぼ同程度である。
- ・「話すこと・聞くこと」では、自分の考えが伝わるように、理由や事例を挙げながら話の中心が明確になるように構成を考えたり、資料を活用するなどして、表現を工夫したりすることについての正答率が低くなっている
- ・「書くこと」では、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについての正答率が低くなっている。
- ・「読むこと」では、目的に応じて、必要な情報を見付けることについての正答率は全国平均と同程度だが、文章を読んで理解したことをまとめることの正答率はやや低くなっている。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、比喩や反復などの表現の工夫に気付くことについての正答率が低くなっている。

今回の調査における課題

- 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えること。
- 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが伝わるように、表現方法を工夫すること。
- 「書くこと」において、目的や相手に応じた効果的な書き表し方を考えること。
- 「読むこと」において、文章を読んで考える際に自分の経験と結び付けてまとめ考えること。
- 言語に関する知識を深め、適切に書いたり、活用したりすること。

改善の方向

- 具体的な相手や目的を意識して、自分が伝えたいこと为中心が明確になるように理由や事例などを挙げ、筋道を立てた構成を検討する学習活動の充実。
- 引用する目的を明確にし、原文を正確に引用したり、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にして、区別しながら書き表したりする学習活動の充実。
- 読む目的を明確にし、筆者の考えと読み手自身の経験を比較したり、整理したりして考えをまとめる学習活動の充実。
- 実際に話したり聞いたりする中で触れてきた比喩や反復、倒置など表現の工夫についてまとめて整理する学習活動の充実。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□ 「数と計算」

- ・全国平均を下回っている。

□ 「図形」

- ・全国平均を下回っている。

□ 「測定」

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

□ 「変化と関係」

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□ 「データの活用」

- ・全国平均を下回っている。

- ・いずれの領域においても、無回答率が全国平均を上回っている。

- 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること。

- 整数と小数の減法の計算をすること。

- 異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できること。

- 立方体の体積の計算による求め方を理解していること。

- 示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる。

- 百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができること。

- 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと。

- 日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を使って記述できること。

- 少数の加法及び減法の計算について、0.01のいくつ分と捉えるなどして、整数と同じ原理・手順で計算できることを理解できるようにする学習活動の充実。

- 日常の具体的な場面に対応させて、分数の性質について理解したり、計算に関して成り立つ性質を考えたりするような学習活動の充実。

- 図形を構成する要素に着目し、立方体や直方体の体積が、縦、横、高さの長さを使って計算で求められることを理解できるようにする学習活動の充実。

- 示された情報を基に、全体と部分の関係に着目して、条件に合う数量を求めることができるようにする学習活動の充実。

- 問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるようにする学習活動の充実。その際、何が基準量で何が比較量にあたるのかを的確に把握し、計算に結び付けるか大切にする。

- 日常生活の事象について、目的に応じてデータを収集し、表やグラフに表したり読んだりすることや、データの特徴を捉え、考察する学習活動の充実。